

および他の科目との関連」「キーワード」の各項目から構成されている。現在のところ、学生は事務室カウンターにおいてのみ閲覧可能である。

3. 学生による授業評価は実施していない。

(点検・評価の結果)

1. FD研修会は継続的に行われているが、神学部と合同実施である。特に研究科の授業に即した内容につき、議論される機会が不足している。
2. シラバスは作成されているが、授業担当者により内容の充実度がまちまちで、全体としての完成度は高くない。公開方法についても限られている。

(改善の具体的方策)

1. 学部と同様の形態による授業評価を導入し、結果を公表する。FD研修会においては、特に研究科の授業のあり方について議論し、教員間で広く情報を共有する。
2. シラバスは最低限含まれるべき内容について指針を定め、個々の情報を充実させた上で、全体としての完成度を高める。また、ウェブなどでの公開を検討する。

結果として、シラバスによる情報公開－学生の授業評価－担当授業へのフィードバックといったサイクルが効率的にできあがるよう検討する。

1.2.3.6 学位授与・課程修了の認定

【評価項目 6-6-1】 学位授与

- (必須要素) 修士・博士の各々の学位の授与状況と学位の授与方針・基準の適切性
- (必須要素) 学位審査の透明性・客観性を高める措置の導入状況とその適切性
- (選択要素) 修士論文に代替できる課題研究に対する学位認定の水準の適切性
- (選択要素) 学位論文審査における当該大学(院)関係者以外の研究者の関与の状況
- (選択要素) 留学生に学位を授与するにあたり、日本語指導等講じられている配慮措置の適切性

【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定

- (必須要素) 標準修業年限未満で修了することを認めている大学院における、そうした措置の適切性、妥当性

<2003年度に設定した目標>

1. 課程博士(甲号)学位取得の促進

後期課程の修業年限を満たした者について、学則の定める期限内に博士論文が提出できるよう指導する。

2. 編入制度の導入

前期課程および後期課程において2年次編入を行うことを検討し、必要な体制の整備を行う。

(現状の説明)

神学研究科では、現在、博士課程前期課程2年の修業年限を満たし、所定の単位を修得して修士論文の審査に合格した者に修士(神学)学位を、後期課程3年の修業年限を満た

し博士論文の審査に合格した者に博士（神学）学位（甲号）を授与している。また、学位を請求する論文が提出され、審査に合格した者にも博士（神学）学位（乙号）を授与している。修士論文、博士論文の審査に当たっては、本学学位規程を基本としているが、神学研究科独自の手続きならびに申し合わせを決定し、これに基づいて実施している。

前期課程における修士学位の授与状況は、2003年度5名、2004年度11名である。審査方法は、主査（指導教員）の他に2名の副査を置き、口頭試問を行った結果をもとに審査を行い、副査の意見を聴いた上で主査が最終的に判断する。成績の表記は優・良・可を合格とする。

修士論文に関しては、例年5月末に修士論文題目を提出させ、中間発表を経て、最後の論文指導がなされている。指導内容は、論文題目の表記や形式、内容、註の書き方などについて行われ、2月の口頭試問を経て判定がなされる。

後期課程において、課程博士は1966年度に1名授与したが、以降の授与者はない。論文博士は2003年度1名、2004年度1名に授与している。

審査方法として、神学研究科としてまず予備審査を行い、次いで本審査に入る。場合によっては、予備審査で論文の問題事項の指摘を行い、一部修正を求めることもあり、厳密に審査を行っている。

3回以上の審査委員会をもって審査報告をまとめ、それを後期課程指導教授委員会に諮り、授与を決定するという手続をとっている。審査委員会は客観性を高めるため、神学研究科以外の研究者に審査委員を依頼することもある。

後期課程満期退学者が、課程博士の学位取得のために、引き続き大学院研究員となり、研究を継続している。2003年度0名、2004年度2名、2005年度4名で大学院研究員制度が活用されている。学則の定める期限内の提出を予定している。

前期課程および後期課程のいずれにおいても、標準修業年限未満での修了は認めていない。

（点検・評価の結果）

修士論文審査において論文提出締切りが毎年1月16日となっているが、その後主査・副査の割当を行うと、人数にもよるが1教員当たり3～4編を読むことになる。学事スケジュール上、間に入試や定期試験が入るため、審査準備の時間が不足している。

博士学位において、乙号の論文博士授与に関しては比較的順調である。しかしながら、甲号の課程博士につき、候補者は数名いるもののいまだ授与の実績が1名しかないことに、問題の究明とそれを解決する努力を要する。

（改善の具体的方策）

1. 前期課程では伝道者育成という高度職業人育成の目標があり、その教育課程においても実践的内容の濃い実習やフィールドワークが取り入れられている。以上を考慮すると、学位授与にあたり、修士論文に代替できる課題研究を設けることを検討する。
2. 課程博士の学位取得者を早期に出せるよう、指導体制を見直し、特に大学院研究員への指導を強化する。
3. 前期課程および後期課程の双方において、編入学の可能性および妥当性について検討を行う。